

# 第4回定例会

・一般質問②

**【質問】** 現在、本町においても感染者が後を絶たない状況であり、町では感染者への支援として買物支援など独自の政策を実施し、感染者の不安解消にも繋がっているとは思いますが、一般家庭や小規模企業は検査キット自体を手に入れることが困難な状況です。本町でも一定の条件下で検査キットを配付することは検討しているのか伺います。

**【答弁】（町長）** 他の自治体での無料配付が行われていること、また現在町内での抗原検査キットの入手が困難である状況も承知しており、町内企業等で複数個の検査キットの購入相談があれば、状況に応じた対応を考えていきます。

**【質問】** 抗原検査キット等の町民への配付については、配付条件を定め、65歳未満の方で有症状、医療機関の受診困難な方などとして配付を制限している自治体もありますが、今後本町の対応としてはこれまで同様、実施しない考えです。

**【質問】** 町内薬局に行けば抗原検査キットが必ず手に入るような在庫管理を町から要請し、町民には町担当者に相談願うような周知が必要だと思えますが、どのように考えますか。

**【答弁】（副町長）** 日常の相談等は町で対応していますが、新型コロナウイルス関連については北海道の相談センターに相談願います。また、検査キット購入については、町内の調剤薬局であ

**【質問】** 町内の花薬局に対し、町からも協力いただきたい旨要請していききたいと思います。

**町の公園等の今後の整備について**

**【質問】** 児童館横の公園では、新しくなった遊具で毎日たくさん子ども達が遊び、休日も親子で遊んでいる姿をよく見かけると、外での遊びは必要不可欠であり、町民の憩いの場の重要性を感じます。小公園や交通公園なども、子ども達が集うだけの場ではなく様々な年代の方が利用し、また町民だけではなく、町外にも魅力を発信できるように公園として、例えばオートキャンプ場やトレイラーハウス、サウナ施設等を整備するといった町に足を運んでいただけるような今後の展望についての考えを伺います。

**【答弁】（町長）** 第5期総合計画に掲げる公園の施策では、公園施設の維持・更新と公園の再編整備の2つが主要の施策であり、現状の公園施策の実施状況は子ども達が安全に安心して遊べるよう施設、遊具の点検や更新を一番に解決すべき項目としています。整備後、外遊びをする子ども達の笑顔が増えていることは大変うれしくことです。近年では「グランピング」などといったグリーンドの高いキャンプもトレンドになってきており、そういった流れをどのような形で町の活性化に生かすかがキーワードとなりますが、観光の課題として、本町では「道の駅サロマ湖」が観光拠点になっていますが、通過型の観光客をいかに市街地に呼び込めるかが大きな課題であり、公園と観光施設の総合的な活用方法や、提案のあったキャンプ場であれば、温泉やサウナ施設とのセットなど、複合的な可能性を含めた中で検討していきたいと思います。



# 第4回定例会

・一般質問①

6名の議員が一般質問を行いました。  
(紙面の都合上、質問と答弁は要約しています)

## 一般質問



高橋紀久 議員

**【質問】** 今後の中学校部活動の地域移行の取組みをどのように考えているのか伺います。

**【答弁】（教育長）** 次年度より、各種関係者等で構成する検討会議を立ち上げ、生徒のニーズを踏まえ、教員の働き方改革や生徒及び保護者の負担にも配慮しつつ持続可能な環境整備に向けて検討を進めます。生徒のニーズの把握及び保護者や運動・文科系団体へのアンケート調査を行い、現状の部活とのマッチングなど多岐にわたって検討したいと考えています。

**【質問】** 佐呂間高校の部活動に対し地域移行と同様なフォローとして何かしらの考えがあるのか伺います。

**【答弁】（町長）** 各活動へ公平に指導者を配置できるかどうかなど課題が多く、単純に導入に向けて考えられないが、一つの方法として考えていきます。

**谷川教育長が考える学校教育方針は**

教育長：社会で生き抜くための様々な力を育む基礎づくりを行いたい

**【答弁】（教育長）** 検討会議の構成委員として佐呂間高校からも参加いただき、高校の意向等を踏まえ、中学校と高校の部活動の連携性などに関して一緒に検討していきたいと考えています。

**町に戻り就労した方に対する奨学金の返還免除などの考えについて伺います。**

**【答弁】（町長）** 町外高校進学者も佐呂間高校進学者も公平に考えていかなければならず、家業を継いだ場合には産業後継者就業奨励金制度がありますが、さらなる就業支援については考えていません。

**【答弁】（教育長）** 多様な可能性を持った一人一人の児童生徒が互いの異なる背景を尊重し、多様な経験を重ね、様々な得意分野の能力を伸ばしていくことがより強く求められることに加え、苦手な分野を克服しながら社会で生きていくために必要となる力をバランスよく身につけていくことが重要であり、佐呂間の地域性に特化した課題は現時点では感じていない、斬新な取組みではなく、着実に知識・技能を獲得し、対話や議論を通じながら問題解決する思考力、判断力、表現力あるいは主体的に学習に取り組む態度などを育むための基礎づくりをしっかりと行いたいと考えています。

**町外進学者におけるUターン希望者等への支援について**

**【質問】** 中学卒業後に町外の高校などに進学し、また佐呂間に

**【答弁】（町長）** Uターンだけではなく、インターンを含めた中での対応を図っていかねばならず、現状では考えていません。地元に戻ってきて仕事をしたいと思えるような町全体の振興に向けて取組みを進めていきたいと考えています。

**谷川新教育長による今後の学校教育に対する考えについて**

**【質問】** 今後の谷川新教育長による教育方針について伺います。

**【答弁】（教育長）** 現状の小学校、中学校の今後の学校編成についての考えを伺います。

**【答弁】（教育長）** 小中学校の教員が目指す子供像を共有して、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す併設型小中一貫校の設置を模索していきたくと考えています。



# 第4回定例会

・一般質問④

**【質問】(町長)**  
 感染者の管理については、基本的に個別保健所の管轄となり、町が積極的に関わるものが出来ない部分については理解頂きたいと思います。  
 町が出来る対策としては、感染により自宅療養中で食料

**【質問】**  
 本町においても、未だに収束が見えない新型コロナウイルス感染症ですが、国では新たな行動制限を行わず、重症化リスクのある高齢者等を守ることに重点を置き、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る方針を打ち出し、現在ではコロナと共存する「ウィズコロナ」としてどの自治体も感染対策を講じていますが、本町における今後の感染対策について伺います。

## ウィズコロナについて



面 栄 次 議 員

**【質問】**  
 本町では今年度から地域おこし協力隊を配置し、町の観光振興に大いに活動されていますが、これまでの活動報告等も含め、町として今後の観

**【質問】**  
 品、日用品の買い物代行や配達について相談を受けていますが、これらの対応は感染された方からの申し出によって行われます。また、各種の相談に対しても随時対応しており、内容により相談先の紹介も行っています。  
 新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの罹患が同時流行する時期であり、町民の皆さんにはこれまでどおり感染予防対策に心掛けるようお知らせするということが町としての役割であると考えています。

## 佐呂間町の観光振興について

**町長：…まずは「サロマ大収穫祭」の開催を目指す  
 新たな観光に向けた可能性を模索する**

**【質問】**  
 令和4年4月から地域おこし協力隊を2名採用し、本町の観光産業、生活文化など多方面にわたる情報発信を精力的に行っています。  
 具体的な手法としては、YouTube、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、ティックトック等のSNSを活用し、町外出身者の目で見ると本町の魅力や特色を常時発信しており、常連の視聴者も増え、好評を得ているところです。  
 また、東京や宮崎県都農町で行われた観光物産展等にも参加し、観光物産協会業務にも活躍し、町内外の活動にも

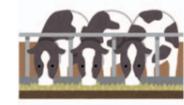
**【質問】(町長)**  
 令和4年4月から地域おこし協力隊を2名採用し、本町の観光産業、生活文化など多方面にわたる情報発信を精力的に行っています。  
 具体的な手法としては、YouTube、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、ティックトック等のSNSを活用し、町外出身者の目で見ると本町の魅力や特色を常時発信しており、常連の視聴者も増え、好評を得ているところです。  
 また、東京や宮崎県都農町で行われた観光物産展等にも参加し、観光物産協会業務にも活躍し、町内外の活動にも

**【質問】**  
 観光客の低迷やイベントの中止が続く中、今後どのような観光振興策を打ち出すのか  
 町長：…まずは「サロマ大収穫祭」の開催を目指す  
 新たな観光に向けた可能性を模索する

積極的に参加しています。  
 今後の観光振興策については、本年度はサロマ湖展望台の大規模改修に加え、展望台までのアクセスの安全性を高めるため登山林道の一方通行化を行い、来春のリニューアルオープン後の利用者増加に期待を寄せているところです。  
 また、サンゴ草群落の植生保護事業の継続と、森林環境譲与税の一部を活用した遊歩道の継続的補修を進めることにも、これらの自然環境と地域資源に加え、体験型、滞在型の観光に向けたニーズ調査を行う予定です。

次に、ルートの現状について、昨年第4回定例会の行政報告及び、本年第2回定例会における三田議員の一般質問の際にも具体的な協議の進展はないと答弁しましたが、その後も運営会社からは状況の変化についての申し出はない状況であり、長期化するコロナ禍と景気の低迷により、ホテル業界は大打撃を受けている中で、現状ではルートインについても早期の再開は難しいものと推察しており、今後の状況の回復を祈ることも、状況に進展があれば速やかに報告したいと思います。

積極的に参加しています。  
 今後の観光振興策については、本年度はサロマ湖展望台の大規模改修に加え、展望台までのアクセスの安全性を高めるため登山林道の一方通行化を行い、来春のリニューアルオープン後の利用者増加に期待を寄せているところです。  
 また、サンゴ草群落の植生保護事業の継続と、森林環境譲与税の一部を活用した遊歩道の継続的補修を進めることにも、これらの自然環境と地域資源に加え、体験型、滞在型の観光に向けたニーズ調査を行う予定です。



**【質問】**  
 物価高騰の中にあつて、町内の酪農・畜産農家も飼料高騰や売却する牛の価格急落、牛乳減産による経営悪化が進む中、10月に決定した酪農・畜産経営安定対策給付金で乗り越えることができるのでしょうか。  
 経営縮小などの不安に悩む農業者が出ないよう、町長の答弁によって、明るい希望を持ち進んでいって欲しいという思いから、今後の酪農・畜産経営の安定化に向けた取組みについて伺います。



土 田 剛 議 員

## 原材料値上げに係る酪農・畜産業経営安定化対策について

**【答弁】(町長)**  
 農業を取り巻く情勢については、9月定例議会の際に、但木議員の一般質問の答弁でも説明しましたが、飼料、肥料等の生産資材のほとんどが輸入に頼っていることから、世界情勢の変化に伴い価格が変動し、高騰を続けています。  
 また、生乳生産においても令和4年度当初の北海道の生乳指定団体の目標は、前年の101%、415.9万トンでしたが、需給均衡と乳製品在庫解消に向け、10月に5万トンの生産抑制が決定され、次年度も9万トン減の401.9万トンとなったところです。  
 さらに、生産資材の高騰と生乳減産の動きが進む中、個

**町長：…国や北海道の補助事業等を活用  
 関係機関と連携し、農業支援に努める**

体販売価格も下落を続け、若干の回復傾向にあるものの、価格の低調が予測されています。  
 これらの対策として、まず飼料高騰対策としては、生産者と飼料メーカーが拠出した通常補填基金と、国と飼料メーカーによる異常補填基金による配合飼料価格安定制度が国の積み増しにより実施されているところです。  
 次に、肥料価格高騰対策としては、国が前年度から増加した肥料費の7割を北海道が1トン当たり3125円を上限に支給しています。  
 生乳の需要改善については、国が酪農経営改善緊急支援事業として、乳量が少ないなどの低能力牛の早期淘汰に対し、1頭15万円、佐呂間町農協が抑制達成に対する助成として5万円を交付することとしています。

さらに、北海道では酪農生産基盤確保対策事業として、26カ月以上の経産牛1頭当たり7200円を支援する国の事業に6800円を上乗せして、飼料高騰や子牛の市場価格の下落、乳用牛群を確保するための種付け料として支援しています。

本町においては、新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を活用し、酪農・畜産経営安定対策給付金として1戸当たり15万円を支給したところです。  
 しかし、これらの一時的な助成だけではなく、乳代の引上げが重要であることから、JAグループ北海道では加工原料乳生産者補給金等の単価の引上げを強く要請してきたところであり、昨日加工乳補給金が49銭引き上げられ、11円34銭となったところです。  
 要望額には到底届かない額ではありますが、引き続き要望を続けることも、国・道の補助事業等の活用、また農協とも連携を図り、農業の支援に努めていきたいと考えています。

本町においては、新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を活用し、酪農・畜産経営安定対策給付金として1戸当たり15万円を支給したところです。  
 しかし、これらの一時的な助成だけではなく、乳代の引上げが重要であることから、JAグループ北海道では加工原料乳生産者補給金等の単価の引上げを強く要請してきたところであり、昨日加工乳補給金が49銭引き上げられ、11円34銭となったところです。  
 要望額には到底届かない額ではありますが、引き続き要望を続けることも、国・道の補助事業等の活用、また農協とも連携を図り、農業の支援に努めていきたいと考えています。

# 第4回定例会

・一般質問⑥

【答弁】(町長) 国から示される新年度予算の概要が明らかになるのが、例年12月下旬であるため、概要が示される前の答弁となることをご了承願います。

国は経済再生を最優先に、財政健全化に向けためり張りの利いた予算編成を行い、成長経路に乗せることを目指していますので、本町の令和5年度予算については、現

【質問】 令和5年度一般会計、特別会計の予算編成については、まだこの時期では地方交付税の見通しが立たない中ですが、基金残高や町債の状況を含め、本町における新年度予算編成概要見込みについて伺います。



小松正義 議員

## 令和5年度一般会計及び特別会計の予算編成概要について

在各課において策定作業を行っています。社会情勢の影響から、光熱水費、燃料費をはじめ投資的経費においても物価高騰による歳出予算の増額が予想され、例年に増して厳しい財政状況に変わりはなく、老朽化施設の長寿命化事業や道路、橋梁、上下水道などインフラ事業に多額の財源を要することから、予算については物価高騰による増額を除き、令和4年度の経常経費を上限としてマイナスイーリングを指し、事務事業の改革及び業務の改善を徹底し、経常経費の削減に努めるよう指示を出しているところです。

令和5年度一般会計及び4特別会計、2公営企業特別会計の当初予算総額について

昨年引き続き、編成する来年度予算にタイトルを付けるとすれば

町長：町の未来づくりを飛躍させる元年に！

「未来の青空へ飛び立つぞ予算」

は、限られた財源の中、最大の事業効果を発揮できるよう令和4年度当初予算を基本として編成する考えで精査していきたいと思えます。

次に、基金残高の状況について、令和3年度末の一般会計における基金残高は56億3876万7000円を保有しており、令和4年度末見込みにおいても同額が維持できるよう終盤の財政運営に臨んでいきます。

次に、町債の状況については、一般会計における令和3年度末の地方債現在高は65億6014万6000円であり、令和4年度末では前年度から約2億円減少し、63億8000万円程度となる見込みです。

今後においても、有利な財源の確保により単年度支出を抑え、起債償還による後年度の財政負担を考慮し、健全な財政運営に努めていきます。

【質問】 町の指標となる自主財源については、若干なりとも増額的な状況となるのではと予想されますが、いかがな状況であるか伺います。

【答弁】(町長) 基幹産業である農業は、酪農・畜産における個体販売価格の下落や飼料、燃油の高騰による経営の悪化が懸念されますが、漁業ではホタテの市場価格が高値で推移し、アキサケの水揚げも史上最高となり、主要な税収は平年並みを確保できると見込んでいます。

【質問】 令和5年度の予算事業の編成上において、思いを込めた予算にタイトルを付けるとするならばどのような予算計画案とするか伺います。

【答弁】(町長) 佐呂間町の地域おこし協力隊2名の採用や、日本航空との共同企画「JAL DE パンフキンキャンペーン」を通じて、町の未来づくりを飛躍させる元年にするという思いを込め、「未来の青空へ飛び立つぞ予算」と名付け、夢の翼佐呂間号で大空へ舞い上がりたいと思います。

# 第4回定例会

・一般質問⑤



但木早苗 議員

## 長引く物価高騰への対策について

【質問】 ロシアのウクライナ侵攻から間もなく10ヶ月になり、その後起こった物価高騰は今も続き、10月末までに2万品目以上が値上がりし、さらに追い打ちをかける円安を要因とする値上がりは既に2000品目を超え、来年2月から3月をピークに値上げラッシュが再来する可能性が高いと指摘されています。

町も地方創生臨時交付金を活用した対策を施していますが、収束の目途さえ立たないウクライナ侵攻等を見たとき、住民の暮らしと町の産業を支える人たちの生活を守るため、今後より一層の支援が必要と考えますが、町独自の支援策も含め、今後の対策について伺います。

【質問】 費用対効果を考えての対策となると、その間に町民や各産業の方たちは疲弊してしまっているのではないですか。

酪農家の方たちは本当に大変だと思えます。「生乳は捨てる、牛を淘汰せよ、そうしたらお金を出す。」という国の在り方に怒りさえ覚えます。

町も水道基本料金の3ヶ月減免を対策として立てました

【質問】 果たしてそれで十分でしょうか。延長する考えはあるのでしょうか。

また、プレミアム付ふるさと商品券発行事業においても交付金を活用した事業であるのに、今までどおりの発行方法ではなく、物価高騰に苦しむ全町民が商品券を受けられるような方法を考えても良いのではないのでしょうか。

現在、町は交付金が入ってからこれらの物価高騰対策事業を考え実施していますが、そうではなく、先に今大変な所を手当てをし、交付金が後から入ったらそれに充当することはできるのでしょうか。

また、町が本当に大変な時に使える基金はどのようなものになっているのでしょうか。

【答弁】(副町長) 基金については、特定目的があって積立てをしており、一般家庭でいう普通預金のような経済的に困って下ろせる基金は、一般的には財政調整基金です。

公共施設等が老朽化している中で、現在検討が始まった庁舎の移転、改築などの財源として、基本的には各公共施設整備基金を活用するわけですが、不足することになれば財政調整基金を活用するといった考えもあるため、いつでも使えるものではありません。

【答弁】(町長) 町が先行して事業を実施することは可能ですが、この世界的規模での今の事態、全町的に見て支援を必要とする具体的なものがあれば、町としても検討していきたいと思えますが、まだ模索中で把握できない部分もあるため、現状としては難しいと思えます。

